【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立若葉小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からの取組を生かしながら、1人1台端末を活用した授業改善を進めて12月に授業公開を行った。教師や児童の1人1台端末のスキルも向上し、授業改善につながっているため本年度も活用を進めていく。 ・毎月のアンケートや毎週の職員連絡会を活用し、いじめが起こりにくい集団づくりに継続して取り組み、いじめの早期発見、早期対応、再発防止を心がけ、児童が安心して過ごせる学校づくりを目指していく。 ・児童の主体的な態度に対する承認・称賛を行うため、積極的・継続的に児童が活躍できる場や機会を増やしていく。また、家庭・地域にも連携を働きかけることで多方面からも承認・称賛を行い、児童の自己肯定感を高めていく。 ・来年度は特別支援学級の在籍人数が増える。特別支援学級在籍以外でも、通級教室に通ったり、普通学級で特別な支援を要したりする児童もいる。なお一層の特別支援教育の充実が必要である。そのために保護者の願いに寄り添い、一人一人の教育的なニーズに応じた指導・支援を行っていく。
------------------	---

2 学校教育目標	「美しい心もち 自分から学び やりぬく子」の育成 ～ 元気いっぱい 笑顔かがやく 若葉っ子 ～
----------	--

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 心の教育（道徳、人権・同和教育、学級活動）による豊かな心の育成 ② 若葉授業と家庭学習習慣の定着による確かな学力の積み上げ ③ 誰もが安心して過ごせる環境づくり ④ コミュニティ・スクールの充実
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)							
●学力の向上	●全職員による授業力向上に向けた若葉授業等の共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートの成果指標を達成した教師90%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で共通の学習スタイルと学び方指導を明確にして、全学級で「若葉授業」に取り組む。 ・主体的・多面的に学ぶ力を伸ばすために、各教科の授業の中で児童相互に主体的・対話的に関わりあう「友達タイム」を活用する。 ・家庭学習習慣定着のための啓発、家庭学習推進デーの設定を行い、自ら学習に向かう児童の育成を目指す。 ・校内研究でユニバーサルデザインの視点に基づいた学習環境・授業づくりを目指す。 						
	○タブレット端末等を使った授業実践による学力の定着	○タブレット端末を効果的に授業で活用している教師90%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を効果的に活用した授業づくりに取り組み、研究授業や公開授業を行っていく。 						
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別の教科道徳の授業で考えたことを生活に生かそうとする児童を90%以上にする。 ○相手が嬉しい、心地良いと感じる言葉や行動について考えることができる児童を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の終末に振り返りを行い、実践につなげる。 ・「ほめほめカード」や「がんばったねカード」に自他の良さを見つけ承認、称賛する。学校内だけでなく、地域や家庭にも参加してもらう。 ・「ふあふあ言葉」を毎学期毎にクラスで考え、目に触れるところに掲示することで、意識して使っていくようにさせる。 						
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめは絶対に許さないという児童の意識、いじめが起こりにくい集団づくりに取り組み、教職員アンケート、保護者アンケートの「いじめの防止に努めている」であてはまると答えた割合が90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uを実施し、その結果をよりよい集団づくりに意識した学級経営に生かす。 ・「いじめ・いのちを考える日」に、児童は毎月、保護者は学期毎にアンケートを行い、個人の悩みやいじめの早期発見・対応を学校全体で取り組む。 						
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・キャリアパスポートを活用し、将来の夢や目標の実現に向けて計画的に取り組む。 						

●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間を増やすために、休み時間等で外遊びをする児童を85%以上にする。	・体育委員会で「クラスマッチ」を企画することで、運動をする機会を増やし、より参加人数を増やす。 ・学級で「元気タイム」を設定したり、雨の日には体育館を開放し、学年ごとに遊ぶ日を設定したりすることで体を動かす機会を増やす。 ・リレーカーニバルや水泳大会・なわとび大会などの体育的行事を行い、体力の向上を図る。 ・各クラススポーツチャレンジに積極的に参加できるような場の設定をする。						
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ○朝食をとって登校する児童生徒80%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりを発行する。 ・給食委員会や保健委員会と連携して望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成児童の取組を推進する。						
	○望ましい生活習慣の形成	○自分から進んであいさつをしている児童の割合80%以上を目指す。	・1年間の生活目標を「あいさつにあふれ、落ち着いた学校にしよう」とし、「合言葉」の「あかるく・いつでも・さきにつづけて」の周知・徹底を図る。 ・あいさつについて学期ごとの具体的な目標を示す。 ・児童会・PTAが連携した朝のあいさつ運動を展開する。 ・年に2回生活点検を行い、生活習慣の見直しを行う。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合15%未満を目指す。	・毎週金曜日を定時退勤日とし、それを逆算して仕事を効率的に行うような意識づけを行う。 ・勤務の効率化を行うために、職場環境の整備や学校行事の見直しを行う。						
	○年次休暇取得の啓発	○長期休業中の目標年休取得日数の達成率80%以上を目指す。(夏季休業中10日以上:夏休含む)	・長期休業中の目標年休取得日数を具体的に示す。 ・教務と連携し、長期休業中の行事や研修会の精選、集中的に行う期間を設ける。						
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、SCやSSWや放課後デイサービス等の関係者間での情報共有を行う。 ・毎月ひまわり部会を実施する。						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○	○教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・保護者や地域の方々の理解を図るために、全学級で年間を通して1回以上、授業参観等を実践する。 ・教科「日本語」の学習内容等を学級通信等で知らせる。						
	○学級活動や学校行事等子どもの出番・役割の設定 ○学級会を主軸に置く特別活動の取組	○学校行事の準備や計画、進行などを児童にまかせ、できるだけ多く子どもの出番・役割を設定し、主体的な取り組みをしているという児童を90%以上にする。	・代表委員会を通して児童の思いを反映させた取り組みを行う。 ・集会や児童朝会、運動会の進行や準備などで子どもの出番・役割を設定し、主体的に活動に取り組ませる。 ・縦割り班での縦割り活動やあいさつ運動を年間を通して行い、児童に計画・立案・運営させる。 ・常に考える教育を推進し、小集団での話し合い活動を行う。						
○	○コミュニティスクールを中心とした学校・家庭・地域の連携	○学校の課題解決に向けコミュニティスクールを中心とした学校・家庭・地域の連携を図る。保護者アンケートで、学校は家庭や地域と連携しながら学校の課題解決に取り組んでいるという割合を80%以上にする。	・PTAとの連携を図り、学校の実態に合わせた各委員会の取組や教育講演会を実施する。 ・コミュニティスクールにおいて学校の課題について話し合い、PDCAサイクルで課題解決に向けた実践を行う。 ・教師より地域と連携した学習において支援してほしい内容を募り、実践につなげる。						

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育